



阿部合成「見送る人々」1938年 板・油彩 137.4×165.6cm 兵庫県立美術館蔵

青森県立美術館 
AOMORI MUSEUM OF ART

2020.11/28日 > 2021.1/31日

開館時間 9:30~17:00 (入館は16:30まで)
休館日 12月14日(月)、12月28日(月)~1月1日(金)、1月12日(火)、1月25日(月)
観覧料 一般 1,500円(1,300円) 高大生 1,000円(800円)
中学生以下 無料

※()内は20名以上の団体料金 ※心身に障がいがある方と付添者1名は無料
※常設展観覧料は含まれません

主催 阿部合成展実行委員会(青森放送、青森県観光連盟、青森県立美術館)
後援 NHK青森放送局、青森ケーブルテレビ、東奥日報社、
デーリー東北新聞社、陸奥新報社、青森県教育委員会、青森市教育委員会

同時開催

コレクション展2020-4:危機の中の芸術家たち

2020年11月28日(土)~2021年2月23日(火・祝)

阿部合成の教えをうけた小坂圭二、成田亨のほか、それぞれの時代の「危機」に
鋭敏に反応した芸術家たちの作品(工藤哲巳など)を展示します。

※別途常設展観覧料が必要です。

※新型コロナウイルス感染症(Covid-19)の拡大状況により、展覧会の内容等が変更されることがあります。

詳細については青森県立美術館ホームページ(www.aomori-museum.jp)

およびフェイスブック(<https://www.facebook.com/aomori-museum>)

ツイッター(<https://twitter.com/aomorikenbi>)でご確認ください。

阿部合成展実行委員会(青森県立美術館内)

〒038-0021 青森県青森市安田字近野185 Tel.017-783-3000 Fax.017-783-5244 www.aomori-museum.jp

GOSSEI・IINO

生誕110周年記念

阿部合成展

修羅をこえて~

「愛」の画家



「小さな埋葬」 1939年 板・油彩
46.0×65.0cm 栃木県立美術館蔵



「ふるさとのおやまさんけい」 1970年 合板・油彩
30.0×41.0cm 世田谷美術館蔵



「前夜(太平洋戦争)」 制作年代不詳 合板・油彩 59.2×136.0cm 世田谷美術館蔵



「マリヤ・声なき人々の群れA」 1966年 板・油彩
92.2×56.1cm 青森県立美術館蔵

生誕110周年記念
阿部合成展
修羅をこえて〜「愛」の画家



「インデオたちの祈り」 1966年 板・油彩
(右)108.0×81.8cm (左)107.7×80.9cm 青森県立美術館蔵



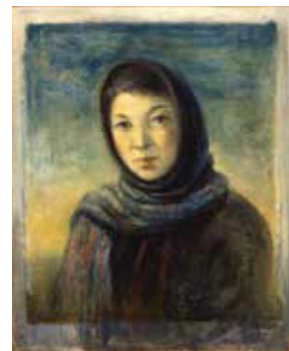
「シベリアの想い出に」 制作年代不詳
板・油彩 23.6×33.0cm 青森県立美術館蔵



「よいどれ」 1948年 板・油彩
51.7×65.0cm 青森県立美術館蔵



「夫人像」 1942年 麻布・油彩
79.5×64.5cm 青森県立美術館蔵



「曲芸」 制作年代不詳 板・油彩
183.2×20.0cm 青森県立美術館蔵

阿部合成(1910-1972)の生誕110年を記念して開催する本展は、青森県立美術館で開催する初の回顧展です。平成から令和にかけて、災害や疫病など、あらたな危機に直面しつつある今、東北と中央、戦争と人間といった日本近代の社会の矛盾に翻弄されながら、苦悩のなかに独自の芸術を追求した阿部合成の芸術の意義を改めて問い直します。

阿部合成は、浪岡村(現・青森市浪岡)に生まれ、橋本小学校、旧制青森中学卒業後、京都市立絵画専門学校で日本画を学びました。1938年、二科会に入選した出征する兵士を見送る人々の熱狂と悲嘆を描いた『見送る人々』は初期の傑作ですが、グラフィ誌に掲載されているこの作品を見た駐アルゼンチン大使から、日本人らしくないという非難をうけたことにより、合成は、反戦的な画家として忌避されるようになります。1943年、自らも出征しますが、敗戦後シベリアで抑留され、1947年に帰還するものの、その過酷な体験は作品にも大きな影響をあたえ、戦前の堅固な構成は影を潜め、即興的で荒々しく感情を吐露するような作品が生み出されます。

1959年、生活や社会との軋轢から逃れるように旅立ったメキシコで、合成は、現地の民俗などに影響をうけながら、自らの学んだ日本画や、メキシコの壁画などの要素をとり入れた独自のマチエールによる新たな画風を作り上げます。

二度目のメキシコ滞在からの帰国後、1972年に亡くなるまでの作品では、メキシコの民俗や土俗的な宗教などに取材したどくろやミイラを題材にした作品を描くようになりますが、これらは、それまで直接描かれることなかった、戦争体験を昇華した鎮魂と祈りの絵画でもあります。1965年、メキシコからの帰国直後に依頼を受け、青森中学の同級生で親友であった太宰治のために、太宰の郷里に建立された鎮魂の碑ともいべき金木芦野公園「太宰治碑」を制作します。

「太宰治碑」以降、合成の作品の中には、死、鎮魂、祈りといった要素が通奏低音のように響きはじめます。「マリヤ・声なき人々の群れA」や、キリストを描いた晩年の彼の芸術の底流には、同時代を生きる人々の苦悩する魂への共感と誠実が感じられます。針生一郎氏による評伝のタイトル「修羅の画家」としての側面で知られる阿部合成ですが、本展では彼の絵に頻りに描かれる地平線の向こうに輝く光のように、「声なき人々」と常に共にあり、彼方の希望にむけて苦悩をのりこえていこうとする人間への「愛」の画家としての側面にも焦点をあて紹介していきます。

《主な出品作品》

- 青森県立美術館所蔵作品を中心に初期からメキシコ時代、晩年にいたるまで生涯を網羅する作品を展示
- 「見送る人々」はじめ県内・国内美術館の所蔵する油彩作品を展示予定

新型コロナウイルス感染症(Covid-19)の拡大状況により、展示会の内容等が変更されることがあります。

詳細については青森県立美術館ホームページ(www.aomori-museum.jp) およびフェイスブック(<https://www.facebook.com/aomori.museum>) ツイッター(<https://twitter.com/aomorikenbi>)をご確認ください。

阿部合成展実行委員会(青森県立美術館内)

〒038-0021 青森県青森市安田字近野185 Tel.017-783-3000 Fax.017-783-5244 www.aomori-museum.jp



青森県立美術館
AOMORI MUSEUM OF ART